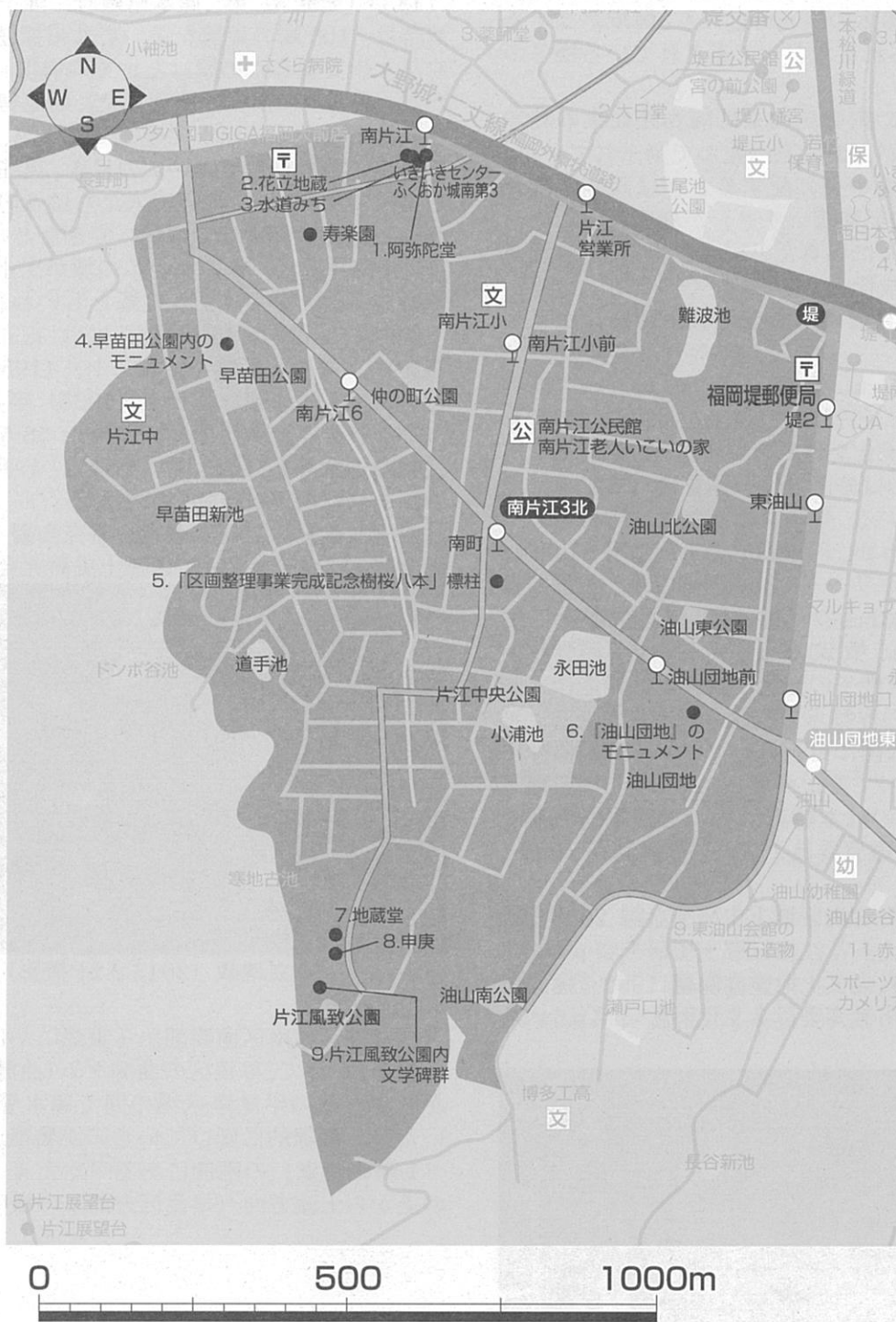


7 章 みなみ かた え 南片江校区



7章 南片江校区

1. 阿弥陀堂^{あみだどう}

【所在地】城南区南片江2丁目6

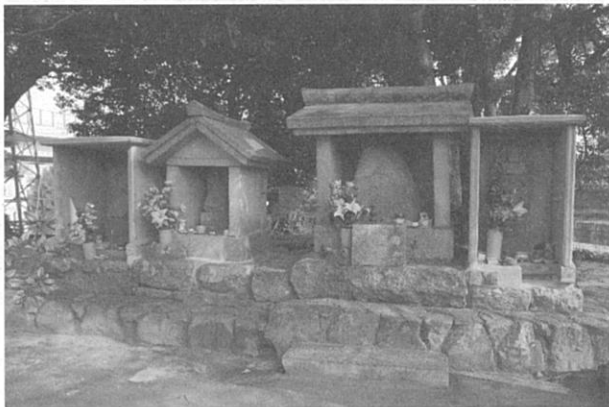
【概要】計4体の石仏が安置されている。地元では「おたいっし様」と呼ばれることもあるという。『新風土記 かたえ』によると、石仏群に向かって左から①子安観音、②地藏菩薩、③阿弥陀如来、④観音菩薩の順で並ぶ。また、④観音菩薩の裏付近にある木の根元付近にも、蠟燭が立てられ、花が供えられるなどして祀られている様子が見て取れる。

このうち③の阿弥陀如来は阿弥陀如来の梵字（キリク）が表面に三つ並んで刻まれている。通常キリクを中央に配するときは両側に観音菩薩「サ」、勢至菩薩「サク」が刻まれるため、この板碑は非常に稀有だという。以下、『福岡市の板碑』より抜粋。

「南片江二丁目板碑 所在地城南区南片江二丁目六

地上高 101.5 cm、幅 78.0 cm、厚 23.5 cm の自然石（花崗岩）に一円相と三種子を竹彫り（断面 U 字型）する。風化が進んでいる。径 57.0 cm の円相を刻む。円相は碑面の幅一杯を使って彫られたため変形している。種子を彫った後に円相を彫ったものであろうか。円相内中央上部に縦 21.0 cm、横 21.0 cm のキリク（阿弥陀如来）、右下に縦 21.0 cm、横 19.0 cm のキリク（阿弥陀如来）、左下に縦 23.0 cm、横 25.0 cm のキリク（阿弥陀如来）を刻む。三種子の配置や大きさは無造作である。それぞれの涅槃点の位置も無造作である。キリク第七・八画に当る「ラ」の画（下部の横線）も正字に比較して変化が著しい。キリク三種子を表わしたものは本調査に於いては本例のみである」（福岡市教育委員会文化財整備課編 1992：54・55）。

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.56・58
福岡市教育委員会文化財整備課編 1992『福岡市の板碑』福岡市教育委員会文化財整備課 p.54・55、p.109



写真向かって左から①子安観音、②地藏菩薩、③阿弥陀如来（キリクが3つの板碑）、④観音菩薩。（2013.2.21 撮影）

2. 花立地蔵^{はなたち}（首切り地蔵）

【所在地】城南区南片江2丁目26

【概要】「1.阿弥陀堂」の道路を挟んで反対側、短い階段を上った先に祀られている。以下、『新風土記 かたえ』からの引用。

「1333（元弘3）年、熊本県隈府に陣をおく菊池武時は、105騎の軍勢を率いて九州探題（鎌倉幕府が九州支配のため設けた地方の機関）を襲撃したが、裏切りにあつて敗死した。菊池勢の武将の一人はようやく片江まで逃げてきたが、厳しい追手に追い詰められてついに力尽き、現在の地藏堂の場所で割腹した。地元の人たちはこの武将を哀れみ、地藏堂を建てて供養してきたという。

（中略）また、首のない仏の像が出土し、地元ではこのことから首切り地蔵ともいわれている。

堂内には絵馬が14枚、棟札には「花立地藏堂」とあり、「堂宇 再建 昭和二十九（1954）年 森住長八 仏頭修理 昭和十（1935）年」とある」（片江校区郷土史研究会編 2003：58・59）。

【境内祠堂等】灯籠一对、台座（「千手観世音」の銘あり）など石造物が数点ある。

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会（p.58・59）



花立地蔵（2013.2.21 撮影）

3. 水道みち^{すいどう}

【所在地】城南区南西部から東部にかけて

【概要】かつて、早良区の曲淵ダム（曲淵水源地）から中央区の平尾浄水場の間で導水管が通っていた道。直線的に延びているのが特徴。写真は、「1.阿弥陀堂」の南側にある「かたえしんばし」の上から上流方向（早良区方面）の様子。



水道みち。「かたえしんばし」の上から
(2013.2.21 撮影)

4. 早苗田公園内のモニュメント

【所在地】城南区南片江6丁目23 早苗田公園

①「片江地区区画整理完成記念」モニュメント

【概要】片江地区の区画整理事業が完成したことを記念するモニュメント。早苗田公園内にあり、文字が書かれた2つの石碑*1*2の他、縦長の白いモニュメントからなる。

【碑文等】

*1 石碑（向かって右側の石碑）

〔表〕福岡市片江地区土地区画整理事業 完成記念 昭和六十一年三月 福岡市長 進藤一馬書

〔裏〕

役員

理事長 廣田長登／全 大穂亮一／全 磯山茂十郎／全 久保山武生

副理事長 松隈和美／全 大穂初實／全 石橋清樹／全 有吉孝太郎／全 石松猿之助／全

樋口操

理事 八尋良平／全 鶴田源太郎

理事 森住千代城／全 鶴田忠／全 石橋俊次／全 花田信雄／全 松尾和三郎／全 大田弥三郎／全 大津綱治／全 大穂義郎／全 金子俊間／全 大穂久和／全 全坂本光喜／全 八尋巖

理事 大穂貞明／監事 八尋益記／全 岡部仁生／全 養原義孝／全 原竹貞治／全 高島義彦

顧問 副田直司／全 船越復生／全 日下部直／全 八尋勇

総代

青木龍祐／有田末夫／磯山新／池田泰三／上原守人／岡部健／大穂正之／大穂榮一／大穂恒雄／大穂傳次郎／大穂金作／大穂元房／大穂常次郎／大穂定雄

荻原泰助／木村弘／日下部正身／小西三郎／柴田清美／白浜勲／重松稔／柴田忠行／田角久幸／武田半次郎／武内忠男／武内康郎／鶴田喬／鶴田茂登／鶴田一弘

鶴橋正弘／津山實／花田種生／花田豊喜／花田昭治／半田清太／畠中喜一／廣田一幸／樋口守／平川辰男／久田保寛／古澤正雄／松隈和夫／松隈潤吉／松隈正利

宮田勇／水崎潤一／矢野貞己／八尋茂嗣／八尋善次／八尋勲／八尋満洲男／八尋武雄／八尋満／八尋国廣／山本博治／吉浦寛／渡邊善季／米田和馬

*2 石碑（向かって左側の石碑）

〔表〕

星霜 実に 十有五年 遂に 片江地区土地区画整理事業は 今 茲に栄光ある完成の日を迎へたり

これ偏に 我等八百八十余名に及ぶ地権者相互の理解と協力と努力の偉大なる成果なり 回顧すれば あの無秩序な雑然たる整理前を思い起し 今 また 現在の整然たる整理後の姿を眺める時 転々、今昔の感に耐えず その感慨や一入無量なり

仰々 わが郷土 片江は その南方に悠然として聳える緑豊かな霊峰油山を擁し これにその水源を發しつつ わが街 片江を蜿蜒として縦貫する片江川の絶えざる清流あり 斯くして 今 更に この画期的なる大事業の成果を得たり

我等は茲に 改めて 永遠なる平和と友愛と幸福を願い 希望ある住みよい豊かな明るい未来を築かんとして この美しい街 片江を後世に伝え その弥栄を祈らんとするものなり

仍つて この碑を建立し これを明記する

昭和六十一年三月

福岡市片江地区土地区画整理組合

〔裏〕

事業概要

一、事業名称 福岡市片江地区土地区画整理事業
一、組合名称 福岡市片江地区土地区画整理組合
一、施工面積 一〇五.九三ヘクタール

- 一、組合員数 八百八十六名
- 一、施工期間 自昭和四十八年十一月
至昭和六十一年三月
- 一、換地処分 昭和五十七年十二月二十七日
- 一、総事業費 五十五億二百五十万円

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.75-76



「片江地区区画整理完成記念」モニュメント(2012年8月撮影)

②「区画整理事業完成 記念樹桜二十本」標柱(早苗田公園内)

【概要】「①片江地区区画整理完成記念モニュメント」のすぐ西側にある。片江校区内に同様の標柱はいくつかあるが、他の場所が「桜十本」に対して、ここのは「桜二十本」とより多く植樹されていることがわかる。

【碑文等】

〔表〕区画整理事業完成 記念樹桜二十本

〔裏〕昭和六十一年三月 片江地区土地区画整理組合



「区画整理事業完成 記念樹桜二十本」標柱(2013.2.21撮影)

5.「区画整理事業完成 記念樹桜八本」標柱(片江中央公園内)

【所在地】城南区南片江4丁目2(片江中央公園)

【概要】片江中央公園の西側(小浦池の北側付近)の周囲と比べて一段高くなっている場所にある。

【碑文等】

〔表〕区画整理事業完成 記念樹桜八本

〔裏〕昭和六十一年三月 片江地区土地区画整理組合



「区画整理事業完成 記念樹桜八本」標柱(2013.2.21撮影)

6.「油山団地」のモニュメント

【所在地】城南区東油山3丁目1

【概要】油山団地1棟の入口付近に置かれている。団地の造成当時に油山から持ってこられた石で、油山の形に似たものが選ばれているという。なお、団地が造成される以前、当地にはブドウ畑が広がっていたという。

【銘文】〔表〕油山団地



「油山団地」のモニュメント(2012年10月撮影)

7.地蔵堂

【所在地】城南区南片江4丁目41

【概要】「8.申庚」の隣に位置する。3体の石造物が安置されている。また、堂の前にはやや縦長の石造物が祀られている。



地藏堂。左手前に縦長の石造物、さらに写真左端に 8.申庚がある (2012年10月撮影)

8. 申庚^{しんこう}

【所在地】城南区南片江4丁目41

【概要】一般的な「庚申」ではなく、文字が逆さになった「申庚」と書かれた石造物。詳しい由緒等は不明。なお、『福岡市の庚申塔』にも記載がない。

【銘文】〔表〕申庚



甲庚。写真右側に 7.地藏堂がある (2012年10月撮影)

9. 片江風致公園内文学碑群^{ふうち}

⇒「12章片江風致公園」を参照。

